



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



宣教する家族を目指して

ザビエル上陸記念祭で決意新たに

八月十二日(日)午後、鹿兒島教区が日本を代表して実施している「ザビエル上陸記念祭」(藤山喜和義委員長)が開かれた。今年の記念祭出席者は昨年より若干少なめだったが、教区で成長し続けている外国人たちの共同体が企画段階から協力してくれるなど、スペインから宣教家族を受け入れ、「異邦人への宣教」に乗り出した教区にとって大きな励みとなった。

タガログ語での祈りに加え

ザビエル音頭も披露

ザビエルウォーク ― ビエルウォーク―で始められた今年の記念祭。午後二



フィリピン人の共同体も一緒にささげた記念ミサ

時という暑い時間に出発地点の祇園之洲ザビエル上陸記念碑前に集った百人余の挑戦者たちは、記念碑前を出発し、ザビエルが鹿兒島滞在中に居を構えたとも言われる古い街並みの残る清水町、春日町を通ってザビエル教会へと歩みを進めた。途中、ザビエルと親交のあった忍室和尚の「福昌寺跡」へも立ち寄り、その墓とキリシタン墓地を訪ねた。

舟をかたどった神輿の上に据えられたザビエル像を先頭に歩みを進めた巡礼者たちは、住宅地や人の往來の激しい通りでもひるむことなく、大きな声でロザリオの祈りを唱え、聖歌を歌い、宣教者となって五キロの道のりを進んだ。

平和の鐘を鳴らそう

徒歩巡礼一行がザビエル教会に到着すると鹿兒島ユネスコ協会と連合壮年会が共催して四年前から開いて



「平和の鐘を鳴らそう」が実施された。

田中弘允鹿兒島ユネスコ協会会長は、第二次世界大戦を振り返り、戦争が人間の尊厳や大切な人、そして日常生活を奪ってしまうこと。そして平和を築くためには一人ひとりの心の中にその種を蒔く必要があることを力強く訴えた。

その後、田中会長と小川靖忠司教総代理が一緒に鳴らしたカテドラルの鐘は、夕暮れの街中に平和の大切さを訴えるようにその音色を響かせ、鐘の音が鳴り響く間、参列者は平和を願っ

諸司祭会議、日時変更のお知らせ

七月十七日に開かれた司祭評議会の決定として、十一月に予定されている司祭評議会、教区司祭会議、コンベンツスの各会議はそれぞれ司祭評議会(十月二十二日)、教区司祭会(十月二十二日)、コンベンツス(十月二十三日)に変更された。

来年開催予定の世界代表司教会議のテーマが「教会生活と宣教における神のことば」と決まり、その総会に向けての準備が始まっています。準備というのは世界中の教会に質問状を出して、その回答をまとめて、会議への提言としてまとめる作業のことです。各教区から回答を貰い、それをまとめて、日本の教会としての提言をまとめて、それをバチカンへ提出します。このような作業は今回が初めてではなく第二バチカン公会議後から通常のこととなりまして、来年は十二回目になります。今年が公会議後四十二年になるので三・五年に一回開かれていることとなります。

＝新風＝ 聖書との関わりを問う

「会議の議題は次の会議の日時を決めること」と抑捺されるほどの会議の多い日本社会ですが、世界の教会も結構まじめに会議を開いているのです。この会議の目的は教皇さまからの諮問に対して答申することです。そして、提言としてまとめられ答申を基にして、数年後、使徒的勧告という文書で発布されます。さて、今回のテーマは、ずばり聖書で

す。信者は聖書を神のことばとして読んでいるか。神のことばが信者にとって生きる糧になっているか? 典礼において読まれる福音はイエス自身が語っているのだ、ということが自覚されているか。神のことばと聖体は互いに補いつつ理解されているか。神のことばに従って生きるとき、キリストを現存させることになるか。理解されているか。内において神のことばに聞かない人は、外において虚しい説教者であるという神父のことばを肝に銘じているか(特に司祭)。

祈るとき、それは神に懇願すること、聖書を読むとき、それは神に聴くこと。また、聖書を知らないことはキリストを知らないことである。などという神父たちのことばを思い出します。 信仰を生きることの困難さ、特に世俗の中で人生の方向性を見失いがちなるとき、「私の歩む道の光」である神のことばに触れましょう。(H・N)

ウォークにも参加した彼らは、ミサの中でタガログ語の主の祈りを歌い共同祈願し、英語での聖歌を披露してくれた。これまで客としてしか接してなかった日本人と外国人との距離が縮まったミサともなった。

ザビエルの熱い心に倣って宣教する家族になろう」とメッセージを贈った。

ザビエル音頭

ミサの後には昨年引き続き、教会ホールと中庭で参加者たちの交流会が開かれた。

ミサの説教で郡山司教は「救いの喜びのイメージは私たちが幼い頃に心に刻み込んだ原風景のようなもの。その何とも言えないほど温かいものを伝えるためにザビエルは苦難の道をやってきた。私たちもイエスが残してくれた原風景を味わい、

提灯が灯され、程よく座が盛り上がってきたところで披露されたのは婦人たちがアレシジ作り上げた踊り「ザビエル音頭」。浴衣姿の婦人たちの輪に信徒が、司祭が、司教がと加わり大きな輪となっていくのが印象的だった。皆の笑顔で満たされた記念祭となった。

YET

「かき氷」「高校野球」「火花」と夏の風物詩を懐かしく思える季節になった。

暑い夏だったと思う。なのに本部は「冷房を使わない」決意で挑んだ。梅雨のまっただ中と明けきらない七月のその居心地の悪さは強烈。事実、自分たちの決意を後悔したりもした▼ある日、誰かが風鈴を窓際につり下げた。南部鉄でできたそれは、風が吹くと何とも言えない懐かしく澄み切った音色を響かせてくれた。暑さに参っていた時期のその音は、体感温度とは別に体を冷ましてくれた。目に見えない風の到来を告げてくれた使者だった。閉めきった涼しい部屋にいたら気付かなかった自然の贈り物を存分に味わえた▼本部が挑戦を始めたのは財政のこともあったが、それよりも教会を支えてくれる人たちの中にあるかもしれない「寡婦の献金」を一円たりとも無駄にしてはいけない...との意見から。今の時代に何を「アホな」との考えも浮かばなかったわけではなかったから、とりあえずの挑戦だった▼今ほどどこかのお年寄りたちが生活費を削って工面してくれた献金の「数百円」を救えたと思う。それはまた、あらゆるところで節約しようという気概にもつながってくれた。そして何よりもあの風鈴が伝えてくれた贈り物に気付いたのと同様に、教区にひっそりと「それでも」と吹いている風を味わえる感性へと磨き上げてくれた。

志願者をベトナムから

連れてきたナム先生

七月十九日(木) 正午、

溝辺にある聖血礼拝修道女会聖ヨゼフ修道院にベトナムから五人のお客さんが到着した。四人の志願者と同伴してきたヨゼフ・ナムさん(五十三歳)である。

ナムさんは彼女たちの単なる旅の同伴者ではない。彼女たちの召命を見出し、生活の面倒を見、霊的講話を行い、観想修道会の生活を体験させ、ニヤチャン教区の司教さまに紹介し、入国ビザに必要な派遣状をお願いして下さり、ついに溝辺の修道院にまで届けてくださった方である。

そのナムさんにお話を伺った。インタビュアーは中野神父。

問 ベトナムでは修道者の召命が多いと聞いていますが、どのようにして四人を見つけたのですか?

答 昨年八月に「鹿児島教区のティエン神父さまが観想修道会への入会志願者を探している」と友だちの女性から聞きました。私は



ナムさん

ベトナムですでに五冊の霊的書物をベトナム語訳で出版してました。「アビラの聖テレジア」の本四冊と「十字架の聖ヨハネ」の本です。

ティエン神父さまは志願者を見つけたために、聖血礼拝修道女会の会憲をベトナム語に翻訳して、この修道会のことを多くの人に知ってもらおうことが先決だと考えていました。なぜなら、ベトナムにはこの修道会が入っていないからです。ですから、私の友達

は私のことを翻訳者としてティエン神父さまに紹介したのです。

「お願い致します。この会憲を英語からベトナム語に訳してください」

私は「今、仕事を抱えているので、それを済ませてからならいいですよ」と答えたのですが、彼は「それは後にして、これを先にしてください。お願いします」と必死に頼みました。私はその熱意に押されて、会憲の翻訳を引き受けてしまったのです。

さて、翻訳を終えて彼にそれを手渡したところ「お願いします。志願者を探してください。少なくとも二人でいいですか」と言いました。

問 ナムさんの経歴を教

えてください。



溝辺修道院の花谷院長を中心にベトナムからの志願者とナムさん

私は、カルメル会の第三会員で、カルメル会なら男子でも女子でも親しくしているし、修道志願の若い人たちとは割合に出会うチャンスがあったので、翻訳した会憲を読んでもらいました。その結果、二か月くらいに間に八人の候補者が見つかりました。その内の四人はニヤチャン教区で、後の四人はあちこちに散らばっていました。今回、溝辺に来たのは全員ニヤチャン教区出身ですが、実は彼女たちを霊的に指導していたフンさんという在俗会の人が存在がありました。彼女は三十人ぐらいの男子学生寮を経営しており、まさに彼女たちの霊のお母さんといった感じでした。

問 昨年十二月に溝辺の修道院行きを決めてから、どんな準備をしたのですか?

答 ホーチミン市で家を借りて共同生活をし、毎朝、近くの教会のミサにあずかってから日本語学校に通わせました。三か月コースを終えてからは故郷に帰り、自宅待機となりました。しかし、その間、カルメル会の修道院で体験生活をしたり、聖血礼拝修道女会の会憲を勉強したり、修道院長さまの霊的講話を受けた

ナムさんのことを溝辺のシスター方はナム先生と呼びます。その由来は実はティエン神父にある。自分に託された翻訳も、努力しただけで叶わなかった。志願者発見も、全部このナムさんがしてくれたので、彼はナムさんを感謝と尊敬をこ

めて先生と呼ぶ。一方シスター方は、ナムさんはティエン神父様の小学校の頃の先生だったのかしらと思っ

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Doktrina ng Pananampalataya"

Ano ang ibig sabihin ng "dogma" o doktrina? Ang dogma o doktrina ay isang sistema ng doktrina na pina-pangalagaan ang kinakatawang relihiyoso bilang tunay at kailangan ng paniniwala. Ngayon ang Turo ng Iglesia ay ginagampanan ang kapangyarihang hinahawakan na nangagaling kay Kristo na makaabot sa kabuan kung ito'y nagbibigay kahulugan tungkol sa "dogmas" o doktrina, halimbawa, kung itoy nagmumungkahi ng katotohanan na nakapaloob sa makapangyarihang Pagpahayag o mayroon kahalagahang kaugnayan sa kanila, sa porma na obligado ang mga Kristiyanong tao sa di-mababagong taga sunod ng pananampalataya. Mayroon itong kaugnayan sa pagitan ng ating pamumuhay espirtual at ng dogmas o doktrina. Ang "Dogmas" o mga doktrina ay ang ilaw patungo sa daan ng pananampalataya, nililiwanagan ito at ginagawang sigurado ito. Sa madaling salita, kung nasa tama ang ating pamumuhay, ang ating kaisipan at puso ay magiging bukas sa pagtanggap sa liwanag sa pamamagitan ng doktrina ng pananampalataya.

Ang kaugnayan nauukol sa magkabilang-panig ng "dogmas" o doktrina, at ang kanilang pagkakaisa ay pwede lang matagpuan sa kabuan ng Pagpahayag ng misterio ni Kristo. " Sa doktrina ng Katoliko ay mayroon umiiral na pasunod-sunod o "hierarkiya" ng katotohanan, dahil mayroon pabago-bago sa kanilang relasyon sa pondasyon ng Kristiyanong Pananampalataya.

Ang ating pamumuhay Kristiyano ay nakapaloob sa turo ng Iglesia o dogma. Para hindi tayo maligaw ng landas ng ating pinaniniwalaan sa buhay na may Dios na buhay diyang kay Jesukristo sa tulong ng Espiritu Santo. Kaya mga Kababayan, ang pananampalataya ay ang magdadala sa atin sa mga bagay na di natin nakikita subalit tayo ay naniniwala. Huwag sana tayong malito sa ating pamumuhay habang dito pa tayo sa ibabaw ng mundo, manalig tayo sa Poong Maykapal na siya lang ang nakakaalam ng lahat, ng ating buhay.

司 教 執 務 室

燃える芝の会

世界を旅するシスターに出会ったのは十五年ほど前

「泊めて貰えませんか」が「一緒に祈ってもらえませんか」になった。司祭として、「祈りたくない」とは言えなかった。そのうち、「日本での燃える芝の会立ち上げに協力を」と言うことになった。祈ってくれる人が増えるのは願ってもないことなので全面協力することになった。ただ、聖霊に祈る人たちのノリには全面協力というわけにはいかなかったが、拒む理由もなかった。

ミサ中の共同祈願は英語圏では「執り成しの祈り」と呼ばれている。この、燃える芝の会の目的が、まさにこの執り成しの祈りなのだと言う。神と人との間にあって執

り成す使命を受けているのが司祭だとしたら、洗礼によつて祭司職を受けた信者の中に、このダイナミックな祈りを専門に請け負う人々がいてもいい。たとえ自分には問題山積だったとしても、教会のため、国のため、祈りを必要とする人々や出来事のため

「神様よろしくお願いします」と執り成し続ける英雄的な信仰を神様が放つて置くはずがないではないか。そういうわけで彼女の活動を支持することに迷いはなかった。一カ月ほどの滞在の後、彼女は世界中の要望に応えるべく帰国し、自分も教会を転々としているうちに十四、五年が過ぎた。しかし、彼女が残した執り成しの祈りの集いは止むことなく続

いた。そして、「芝は燃え尽きない」(出3・2) まま彼女の帰りを待っていたのだ。そんな彼女がインターネットで「司教執務室」を知ったのはつい最近。早速、やり残したことを完成すべく駆けつけ、約一週間の滞在のあと、また風のごとく去っていった。そして、聖母被昇天の祝日のミサ後、司教認可を受けた「燃える芝の会」の発足式がひっそりと執り行われた。派遣を受けた五人は日本における初代メンバーということになる。鹿児島でのメンバー増加と共に、信者一人ひとり

が、もう一組の頼もしい助っ人「聖霊の兵士」たちの熱い祈りによつてスリムで引き締まった信仰体型を実現できるように期待したい。



9月17日教区フェスタ開催

共に宣教に目覚めよう！

敬老の日にあたる九月十七日(月)に教区では信徒の福音宣教への覚めを促すために鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で「教区フェスタ」を開催することにした。

この初の教区フェスタは、これまで長年続けてきた会議形式や組織の運用だけでは、一人ひとりが福音宣教に目覚めるのは困難であるとの観点から、司祭評議会で開催決定されたものでテーマは「福音宣教と殉教」。特に来年予定されている「日本一八八殉教者列福式」に向かう第一歩とする狙いがある。

平田三郎司教 帰天

大分教区の初代、福岡教区の第四代司教だった平田三郎司教が、八月五日(日)、入院先の新田原聖母病院(福岡県行橋市)で肺炎のため帰天した。九十四歳だった。一九一三年現在の久

留米市に生まれた平田司教は、一九三九年に司祭に叙階された。大分教区の初代司教に叙階されたのは、一九六二年。その後、一九七〇年から九〇年十月に引退するまで福岡教区四代目の司教を務めた。司教の座を降りてからは、糸島教会で司牧され、二〇〇〇年に聖母訪問会新田原修道院に移っていた。

門田 明氏の 鹿兒島とキリスト教⑩

ザビエル日本を去る

六月号で、都に上ったザビエルが宣教の実りをあげることができず、失望して山口に帰ってきたことを話した。一五五一年四月末のことであった。この京都行きで、ザビエルは日本では形式を整えることが非常に大切だということ学んだようである。山口に帰るとすぐ領主に面会するが、今度は衣服を整え総督と司教の親書と進物を持参し奉呈する。領主は宣教を許可し、手厚く保護する。すぐに宣教活動を始め、二か月で五百人に洗礼を授けたという。ザビエル自身、書簡の中でこう

六分教区の初代、福岡教区の第四代司教だった平田三郎司教が、八月五日(日)、入院先の新田原聖母病院(福岡県行橋市)で肺炎のため帰天した。九十四歳だった。一九一三年現在の久留米市に生まれた平田司教は、一九三九年に司祭に叙階された。大分教区の初代司教に叙階されたのは、一九六二年。その後、一九七〇年から九〇年十月に引退するまで福岡教区四代目の司教を務めた。司教の座を降りてからは、糸島教会で司牧され、二〇〇〇年に聖母訪問会新田原修道院に移っていた。

「ふたたび山口に戻り、持って来たインド総督と司教の親書と、親善のしるしとして持参した贈り物を、山口侯に捧げました。この領主は贈り物や親書を受けてたいそう喜ばれました。領主は私たちに返礼としてたくさんのお金を差し出し、金や銀をいっぱい下賜されようとしたけれど、私たちは何も受け取ろうとしませんでした。それで、もし領主が私たちに何か贈り物をしたとお思いならば、領内で神の教えを説教する許可、信者になりたいて望む者たちが信者になる許可を与えていただくこと以外に何も望まないと申しあげました。領主は大きな愛情を持って私たちにこの許可を与えてくださり、領内で神の教えを説くことは領主の喜びとするところであり、信者

「講演会」のお知らせ

鹿兒島カトリック女性信徒の会

演題 家庭 愛といのちのきずな
講師 川添 猛神父様(熊本・帯山教会主任)
日時 十月八日(月)
講演 十三時三十分・ミサ 十五時四十分
場所 ザビエル教会

二十五周年を祝う

喜界島教会

喜界島ミッシンセンタワーとして始まった古田町教会の巡回教会「喜界島教会」が献堂二十五周年を迎え、七月二十二日(日)郡山司教を囲んで記念ミサをささげた。

喜界島は、名瀬市の東約七十キロに浮かぶ周囲四十九キロ、人口八千四百人の島。ここでの宣教は、昭和の初めに筈利からガブリエル神父と同島出身の信者が訪問して、ミサをささげたのが最初で、第二時大戦後は昭和三十二年にルカ神父が足を運んだ記録が残されている。

▼幼稚園教師研修会
第三十九回鹿兒島教区カトリック幼稚園協会教師研修会が七月二十六日(木)から二日間、霧島国際ホテルで開かれた。
教区内各地から集まった百四十人を超える幼稚園関係者たちは、吉田ゆり鹿兒島純心女子大学准教授の講話「ちよっと気になる子どもとの関わりについて」で学習するとともに、親交を深めた。

九月十五日に定礎式

再生される旧ザビエル聖堂

四月十五日の起工式に郡山司教様と三十人以上の方々をご参列下さいました。感謝いたします。

その後、地盤調査の結果、良好との報告を頂きました。そして七月一日に工事安全祈願式を行い、翌日から工事に入り、現在基礎工事中です。九月十五日に第一期工事(基礎)を定礎式で終了する予定です。第二期工



(報告 土田充義)

9月

今月の暦

- 1日(土) 川淵 勇神父命日(一九九七年)
- 2日(日) 年間第二十二主日
- 8日(土) 聖マリアの誕生
- ▼七田和三郎神父命日(一九八九年)
- 9日(日) 年間第二十三主日
- 14日(金) 十字架称賛
- ▼糸永真一司教司祭叙階記念日(一九五二年)
- 15日(土) 司教座教会献堂記念日
- 16日(日) 年間第二十四主日
- ▼北薩地区宣教奉仕者養成講座・出水教会
- 17日(月) 教区フェスタイバル・鹿兒島カテドラル
- 「10時」ミサ 「12時」昼食とアトラクション
- 「15時」聖体賛美式
- 18日(火) レデンプトール会例会
- 21日(金) 聖マタイ使徒福音記者
- ▼浜田盛茂神父霊名(聖マテオ)
- 23日(日) 年間第二十五主日
- ▼世界難民移住移動者の日(献金)
- 毎年九月の第四日曜日とされている「世界難民移住移動者の日」は一九七〇年、時の教皇パウロ六世が教皇庁移住・移動者司牧評議会を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『共に生きる』決意を新たにす日」として設立されました。「世界難民移住移動者の日」では、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。
- ▼ダニエリ神父命日(二〇〇三年)
- ▼バルビニ神父命日(二〇〇四年)
- 26日(水) ヴイゴロ神父叙階記念日(一九八二年)
- 27日(木) 有馬信茂神父叙階記念日(一九五九年)
- ▼メニヒ神父叙階記念日(一九五九年)
- 28日(金) ロベルト神父叙階記念日(一九七五年)
- 29日(土) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使
- ▼木村敏彦神父霊名(聖ミカエル)
- 30日(日) 年間第二十六主日
- ▼青年主催「伊集院徒歩巡礼」
- ▼マリアポリ・教区本部・10時

第49回カトリック看護協会全国大会

11月9日(金)～10日(土) 純心女子大学(薩摩川内市)

11月9日(金) 講演会

- ・カトリックナースの使命 糸永真一前鹿児島教区長
- ・あたたかい医療を考える 三島盛武鹿児島純心短大教授

11月10日(土)

- ・医療者と諸宗教対話 ソットコロノラ神父(真命山・諸宗教対話・霊性交流センター長)
- ・会員発表 三題 看護の現場からの発表
- ・大会ミサ 司式 郡山健次郎鹿児島教区司教

全国からこのザビエルの地においで下さった方々にミニツアーとして、レオ税所七右衛門ゆかりの地の巡礼を計画しています。また、その他オプションとして、ザビエルの足跡をたどるバスツアーもあります。

鹿児島県内からの多数のご参加を！特に医療並びに福祉に関わる方々の出席をお待ちしています。

J CNA鹿児島支部 松村精子

お問い合わせ・連絡先

〒895-0011 薩摩川内市天辰町2365 鹿児島純心女子大学
看護栄養学部 看護学科 J CNA事務局 高平百合子
TEL 0996 (23) 5311 ○0996 (23) 5030

文芸

俳句(思川俳句会作品)

市来房枝選

鹿児島 徳永ノブ子
活けられし向日葵見上ぐミサの中
(評) 一輪のひまわりが、御堂を照らしている情景が目に浮かぶ。

出水 沖 弘子

巡礼やカンナの燃ゆる無人駅
(評) 無人駅がカンナを引き立てた。

出水 遠竹 睦郎

蛸の淋しき誘ふ山路かな

鹿児島 東 健一郎

故郷や機織ることを夜なべとし

鹿児島 本城 愛

父徳ぶ祭りの夜の串だんご

鹿児島 春山マリ子

夏祭り祈りの中に見詰めあ

純心学園 山頭 信子

一輪の泰山木の豊かなり

鹿児島 龍門司真人

黙示つつ祈る口語の一行詩

(評) いつもみ言葉と共に生きておられる姿勢が表出された一句

短歌(思川短歌会作品)

市来房枝選

鹿児島 田平新太郎
正座して母の爪弾く三味の音に口笛
添へむ明方の夢
(評) 夢とはいえ幸せな一時だったことだろ。

大 口 森 博伸

み言葉を手紙に一行書き添へぬ君の

便りも絶へて久しく

(評) 便りの途絶えた友へ手紙を書くことは勇気が要る。

出水 遠竹 睦郎

叢くさむらに集く虫の音聞こへきて今年の暑

き夏の過ぎゆく

(評) 季節の推移が巧く表現された。

純心学園 川上 和

長崎の平和の鐘が鳴り響く核根絶の

世界目指せと

鹿児島 前田 儀子

洗ひ髪風になびかせ犬を曳く河原の

闇に螢飛び交う

阿久根 眞清水 藍

うぐみすの轉り止みて束の間に吾の

生れたる神無月逝く

奄美 林 常広

都会にて働く若者帰省して奄美に会

へばただ懐かしき

鹿児島 春山マリ子

七夕に願いを込めし友の歌星のきら

めく夜空に響く

奄美 林 明子

青空は見渡す限り広がりがりてわれの心

にしみ通りゆく

選者 詠

賜はりし鹿児島アララギ賞の楯マリア像

の前に供へぬ

明光学園が人形とバッグを製作

9月23日「大口明光学園バザー」で販売

大口明子さん人形が誕生して早三年となりました。昨年も大好評で、たくさんの注文をいただき、ありがとうございます。製作者一同、一針一針、



真心をこめて作りしました。今回は新作を紹介しします。今まで夏、冬服の人形は着せ替えになつており夏服を着た明子さん人形より、冬服の明子さん人形が人気があつて、夏の制服が余つてしまいました。たくさんの方が提供して下さいた大切な制服です。夏服の制服を無駄にはできません。そこで布をいかしてバッグを作ることになりました。アツプリケでかわいく仕上げてあります。きつと新作のバッグを皆さまに喜んでいただけると思います。価格も千三百円とお求めやすい

義援金受付!

ペルー地震へカリタスジャパン

カリタスジャパン教区担当者への連絡によると、カリタスジャパンでは八月十六日に発生した「ペルー地震」災害に義援金の受付を行うことにした。義援金の宛先は以下の通り。

郵便振替番号 〇〇一七〇一五一九五九九七九
加入者 カリタスジャパン
意向 ペルー地震災害義援金

お値段で、注目されています。マスコットになったシスター人形、ミニサイズの明光人形も多数、そろえてあります。明光祭は九月二十三日(日)午前九時から午後二時となっております。とっても楽しいですよ。ぜひ学園までバザーに遊びに来て下さい。お待ちしております。

参加者募集

マリア山荘黙想会

「福音書の女性たち」をテーマにしたマリア山荘黙想会(後期)が九月二十七日(木)の日帰り黙想会から始まる。今回も前期(四月～七月)

同様、日帰りの黙想会と土日を利用する一泊黙想会が用意されている。講師はマリア山荘の永山幸弘神父で、日帰り黙想が千五百円、一泊黙想が

日	帰	黙	想
第一回	福音的信仰のあかし	シモンの家での罪深い女	九月二十七日
第二回	みことばを信ず教会のしるし	マルタとマリア	十月二十五日
第三回	男性の支配からの女性の解放	夫が妻を離縁することは許されていますか	十一月二十日
第一回	福音的信仰のあかし	シモンの家での罪深い女	十月十三・十四日
第二回	みことばを信ず教会のしるし	マルタとマリア	十一月十七・十八日
第三回	男性の支配からの女性の解放	夫が妻を離縁することは許されていますか	十二月八・九日

アルフォンソ

村田源次神父帰天

八月十一日、浦上教会で村田源次神父(九十一歳)の追悼ミサが行われ、郷里の笠利町平墓地に埋葬(分骨)された。奄美出身初の司祭だった。

村田源次神父(聖ヴィアートル会)は昭和二十年六月三十日、カナダで司祭に叙階。帰国後、京都の洛星中等学校の創立にかかわり校長も歴任した。

追悼ミサは聖堂一杯の参加者とともに六人の司祭の共同司式で行われた。

マリアポリ 2007 in 鹿児島

日時: 9月30日(日) 10時～16時
ミサ 15時 郡山司教司式
場所: 教区本部棟

【お問い合わせ】
鹿児島市魚見町119-7
直 泰江 TEL 099-267-1421
長崎フォコラーセンター
TEL 095-848-7281

カトリック新聞

へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週配達いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

〒125-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします